

2010年7月30日

／ 毎年よ彼岸の入りに寒いのは ／子規

「お彼岸なのに寒いって、お兄さんが…」

「律。毎年のことだよ、お彼岸の入りが寒いのは」

この会話が襖越しにきこえて、臥している子規の脳に、ぴかりと閃きが走った。左肘をついて首をあげた蝸牛みたいに体を起こすと、母親のつづやきを書きとめて、彼はニヤリとした……。

…掲句の出来たいきさつが、私には、こんなふうには想像できません。つまり「ノボさん、お彼岸の入りが寒いのはね…」と話しに応じたのものではなく、母親の、娘へのつづやきをつかみ取って、五七五にまとめたのです。

定説？に拘らずに言えば、あの句は、はからずもツイッターじゃないかと私は思うのです。つまり、母親のつづやきを五七五にまとめる…それが子規の閃き…アイデアだったのです。

俳句ってツイッターじゃないの、といわれたしたのは最近のことですね。

しかし、八木会長の説からみれば、かなり以前からになります。「考えない、感じたままのつづやきが俳句になる（…庵通信7/23号）」と云っておられるんですから。

有名な、あの鶏頭の句も、まとめられた前後のことが挿話ふうに思い浮かびますが、後にゆずりましょう。

／ 鳥の巣に鳥の入っていくところ ／ 波多野爽波

…これは鳥の巣を観察していた時の、作者のつづやきでしょうね。同行の某氏を肘でついて「ほれっ！…」と小声でつづやくごとく云ったのでは…とは私の想像です。

／ 水仙の花のうしろの蕾かな ／ 星野立子

…虚子が絶賛した立子宇宙の一つ。親子の関係などと余計な詮索をぬきにして、これも、つづやきじゃありませんかね。下五の「かな」を「だわ」とすると、立子さんが水仙の花を見つめながらつづやいているのが聞こえてきます。

俳句の歴史を渉猟すれば、つづやきみたいな俳句、ツイッター的五七五はたくさん見つかります。パンチが効いてるか、ツッコミが鈍いか、諧謔があるか、は作者・読者の感性にもよるでしょう。

／ 蜘蛛の巣に脚ながながと眠りおり ／

…眠っているのは女郎蜘蛛です。つぶやいて、中七下五をいささか工夫しました。中七下五の表記に俳句的工夫をしました。でも、女郎蜘蛛へのイメージ誘導が、ちょっと無理があるでしょう。

／ 蜘蛛の巣の主はそら寝のすきっ腹 ／

…これは蜘蛛の生態を考えた作為が入りすぎましたね。主観と理屈が濃厚で、気軽にツイッターしたとはいえず、落第俳句でしょう……。